

## 第1回こまつ創生会議 議事録（大要）

- 1 日 時 平成 27 年 4 月 21 日（火）  
開会 10 時 30 分 閉会 12 時 00 分
- 2 会 場 小松市役所 3 階 3 B 応接室
- 3 出席者 座 長 小松市長 和田 慎司  
メンバー 新井 洋司 氏  
" 角谷 淳子 氏  
" 河南 恵美 氏  
" 駒澤 美紀 氏  
" 斉藤 雅美 氏  
" 佐無田 光 氏  
" 新田 雅道 氏
- 事務局 総合政策部 経営政策課  
" 財政課
- 4 協議事項 (1) 会議運営およびスケジュールについて  
(2) こまつ創生に向けた意見・提案等について  
(3) その他事項

### 5 議事の概要

○ 配布資料事前説明（事務局説明）

○ 座長あいさつ

○ 協議事項

(1) 会議運営およびスケジュールについて

■会議運営について（事務局説明）

会議は原則非公開とするが、協議内容は座長が集約のうえ、その大要を市ホームページで公表すること 等

## ■スケジュールについて（事務局説明）

- ・現在市で策定を進めている「(仮)Next10年ビジョン」の大きな戦略の1つとして「こまつ創生総合戦略」を位置づけ、本年秋を目途として、Next10年ビジョンとこまつ創生総合戦略の両方を決定していくようなスケジュール予定で進めていくこと
- ・次回は人口トレンド等も示しながら、方向性等についても協議していくこと 等

事務局案について、メンバー一同了承・決定

### (2) こまつ創生に向けた意見・提案等について

#### （事務局説明）

人口動態だけでなく、小松市の特徴的な客観的指標（産業・雇用・財政・ランキング等）や幸福感などの主観的指標、経済活力要素なども分析しながら、グローバル化や広域的視点、未来に向けた行動理念なども踏まえながら、総合戦略の内容づくりに向けて意見交換していきたい。

- ・達成したい目標を代用特性として定め、旗管理方式によって目標達成に向けて展開していく考え方は非常によい。ただし、何を目標とするかの整理と、行政体の取り組みだけでは困難な目標もありうるので、何ができることなのかを整理し、進め方を分解していく必要がある。
- ・広域的視点も踏まえ検討するに際して、南加賀地域の中で、また一方で北陸圏の中で小松市がどのようなポジション・機能を果たしていくのかというあたりが、小松の戦略の中で重要となる。
- ・また、長期的な視点に立つと、ものづくり・製造業を軸とした経済発展が雇用や所得を支えていた時代から徐々にシフトしていくと思われるが、そのときの小松の狙うべきポジションがどのようなものかを検討してもよい。
- ・例えば、サイエンスヒルズこまつもオープンしたが、人づくりとかサイエンス、科学を生かした新しい産業づくりなど、構造変化の下での、ものづくりのまちの一つのあり方を小松から示していくことも考えてみる必要がある。
- ・前向きな視点や数値的特長がある一方で、将来人口などの厳しい局面にどのように対応するか、また、長期的には、産業構造が変革する中で、新たにどのような経済的基盤を構築するかが課題となる。今後はICT産業など専門的サービス分野が伸長すると思われるが、そういう分野については、諸外国に比べると日本の地方都市は極端に成長していない。大都市と地方との分業構造を変えていく必要がある中で、地方自らが国際都市を目指す、グローバル化の中での独自の拠点性

を作り出すなどの、構造を変えるアプローチが必要になってくる。

- ・地方創生は、そうした構造を変化させるような課題を念頭に置くべきと思うが、歴史性や地域性を鑑みると、これまでの発展の仕組みをがらりと全部変えていくよりは、地域の産業やこれまで培ってきた基盤を生かして、次の段階にどう進めるかというアプローチが必要。小松の場合は、ものづくり技術の歴史性を生かしながら、例えば、大学発のベンチャーや先端技術を新たな産業としていくような、これまで日本があまり得意としていなかった新しい専門サービス分野を伸ばすことなども考えていくことができる。
- ・例えば、ものづくりの中でも、最先端の科学技術を取り入れて、それを地域の問題解決や製造業などのレベルアップにつなげるシステムと、そこに携わるサイエンスリテラシーの高い人などを育てる人材育成システムができてくると、長期的に有用である。
- ・人材育成は長期的視点で取り組む必要がある。一方で、総合戦略は目下の人口減少への対応も考えていかなければならないので、短期・中期・長期それぞれでの、様々な取り組み方を考える必要がある。
- ・有効求人倍率をみると、北陸圏は1倍を大きく超えている状態であるが、中身を見ると、建設・サービス・福祉・小売などの業種では、人手不足が顕著となっている。一方、地方の若者は、魅力的な職場を求めて東京圏の大学に進学すると、地元に戻らない事態も生じていると思われるので、若者の卒業と就業とをうまくつなげる人材育成（機関の存在）は重要である。さらに、非製造業の生産性向上を図るためのICT化とそれを担う人材の育成などが、地域の成長・発展の下支えにつながるとと思われる。それらの状況分析や、小松の強みと今後の北陸新幹線延伸を踏まえた適切な戦略を構築していくことが有用である。
- ・魅力的な職場が多くなることは、所得水準をどのように高めるかという課題にもつながる視点である。
- ・産業界の活性化と人材を供給する地方大学の強化の両輪が重要と考える。
- ・地域に教育機関・教育環境が充実していることは大きな強みである。教育の推進や教育レベルについても考えていくことができる。
- ・学校と行政体とがリンクしながら、充実している市内の施設を子どもたちの教育基盤として活かしていくことで、高い能力を持った人材を育てていけるのではないかと。ひいては、将来、小松の発展につながる人材にもなるものと考えられる。
- ・女性の子育てと仕事の面では、魅力的な企業があって、そこでワーク・ライフ・バランスや子育てしながら楽しく生活できる環境が一層整ってくると、小松に住

- みたいとか、訪れてみたいという女性が増えてくるのではないか。女性が引っ越しに来て来たいと思うと、子どもや旦那さんも連れ立ってくるサイクルが生まれる。
- ・結婚や出産・育児で会社を離れた女性の復帰や再就職を進めることも、これからはより重要となる。職場復帰しやすい仕組みが全ての企業で整うなど、より働きやすい環境づくりを応援する必要がある。
  - ・シニアの方々も、60歳で引退するのではなく、少し働くなどし、税金を納める立場、若い人を支える側に回れる仕組みづくりも考えていくことも重要である。
  - ・これらの実現に向けては、フルタイム制に限らず、様々な働き方を考えていくことがより必要となってくる。
- 
- ・小松市には多くの町内があるが、共働き世帯の子どもの放課後の居場所づくりとして、例えば退職されたご近所のおじいちゃん、おばあちゃんなどが町ごとに受け入れするところがより増えてくると、親たちも安心できる。ひいては子育て環境向上にも有用である。
  - ・現在、市内180カ所で「いきいきサロン」が実施されている。シニアの方々の体力づくりや、趣味サークルの場となっているが、そこに子どもたちを呼んで一緒にやっている地区もある。地域の個性を生かしながら、これらの取り組みを広げていければよい結果につながるものと考ええる。
  - ・地方創生は、小松市の地方創生の意味もあるが、町内単位・一丁目二丁目単位などでの地域を創生していくという形もあると考える。
- 
- ・住まい探しを行っている人にとって、小松市は、定住促進の助成金などが手厚く、石川県内でも一番と思える規模であり、移住・定住政策にはとても力を入れている実感がある。その成果なのか、南加賀地域の中でも、小松を選んで住居を構える方が、ここ数年とても増えていると認識している。
- 
- ・小松では、木質バイオマスの、事業所での活用展開が始まっている。事業所への普及は大変大切なことであるが、一方で、いかに地域の山林を間伐して山をきれいにし、使い出していくかなど、林業活性化も同時に取り組む必要がある。
- 
- ・インバウンドの海外観光客が非常に増えてきており、今後、東京オリンピックに向けてさらに増えていくと思われる。インバウンド観光客が11人ぐらゐ来ると定住人口1人分ぐらゐの経済効果があるとも言われている。小松市には空港があることから、北陸新幹線延伸にも対応しながら、インバウンド観光客を中心とする交流人口拡大などの視点も考えていくことができる。

- ・一つの見定めた小松のポジションに向かうよう、政策の方向性を統一していくことで、得意分野が引き出され、良い意味で小松が差別化されていくと考える。

### (3) その他事項

#### ■まとめ

- ・地方創生は、年度の制約など慌ただしい面もあるが、地域経済・社会の実態がどうなっているかをデータとして捉え、何が地域の問題を客観的に示しながら、地域毎に課題解決に取り組む枠組みを設けた点では重要である。地域住民や自治体が、地域資源の実態をきちんと理解して、自分たちでそれらをマネジメントできる能力形成を進められることが、地方創生の一番の核と考える。
- ・地域の現状把握、そして、これはなぜこのような動態として現れているのかなどの分析が進むと、今後より議論がしやすくなると思う。さらに、過去からの時系列で見ることができると、将来どうすべきなのかという戦略目標についても議論を進めることができる。

#### ■次回に向けて

- ・戦略目標の深掘りや、小松市のポジション・課題の整理を行う
- ・数値データを考察し、現状や将来の方向性などをメンバーで共有するとともに、次回会議までの間でも意見交換などが可能な連絡環境を整える
- ・その上で、できる限り早期に次回会議を開催できるよう、日程調整していく

以上